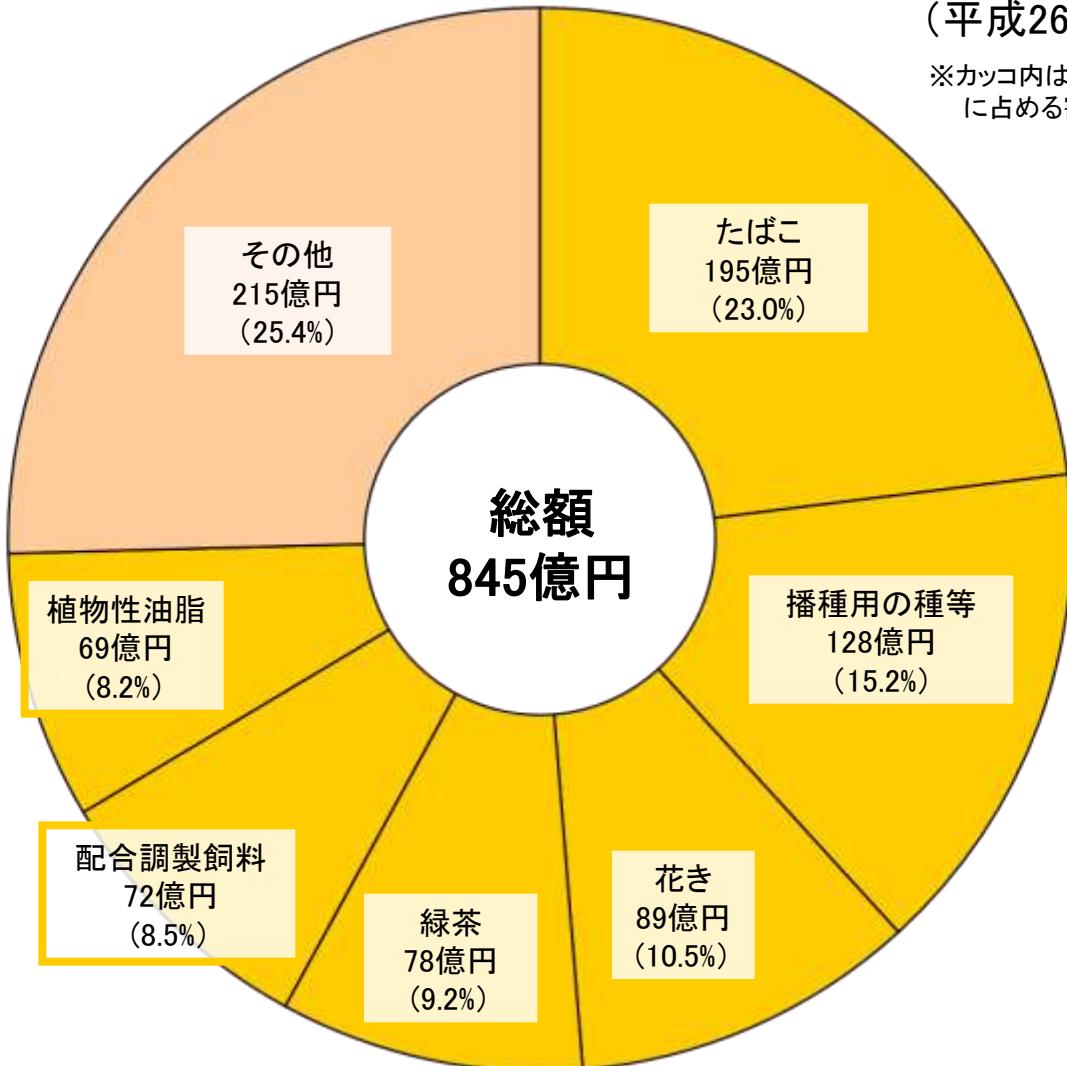




# その他農産物の内訳

MAFF

- 他の農産物では、たばこ、播種用の種等、花きなどの割合が多い。



(平成26年)

※カッコ内は輸出額  
に占める割合

播種用の種等  
128億円  
(15.2%)

植物性油脂  
69億円  
(8.2%)

配合調製飼料  
72億円  
(8.5%)

総額  
845億円

緑茶  
78億円  
(9.2%)

たばこ  
195億円  
(23.0%)

花き  
89億円  
(10.5%)

その他  
215億円  
(25.4%)

(単位:億円)

品目名	平成25年	平成26年	増減率
たばこ	228.3	194.6	▲14.8%
播種用の種等	116.4	128.2	10.1%
花き	99.9	88.6	▲11.3%
植木等	94.3	81.4	▲13.7%
苗物類	3.6	3.4	▲5.9%
切花(生鮮・乾燥)	1.7	3.4	104.1%
緑茶	66.1	78.0	18.0%
配合調製飼料	57.5	71.6	24.6%
植物性油脂	57.9	68.8	19.0%
ごま油	39.6	46.6	17.6%
メントール	56.7	57.0	0.5%
インスタントコーヒー	24.9	30.1	21.1%
植物の液汁エキス	28.1	25.4	▲9.8%
コーヒー	8.2	8.8	7.4%
茶のエキス	7.5	8.0	7.0%
ペットフード	6.1	6.9	13.0%
ぶどう糖	1.9	2.2	15.4%
ココアペースト	2.2	2.0	▲9.5%
砂糖(精糖)	1.7	1.7	▲2.0%
薬用にんじん	0.2	0.4	123.9%
生糸	1.1	0.1	▲94.8%
その他	62.5	72.1	15.3%
その他農産物計	827.2	844.5	2.1%

※「植物の液汁エキス」…用途は健康食品や化粧品など。

※「メントール」…ハッカから抽出される成分で、チューリングガムや歯磨き等に使用。

資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

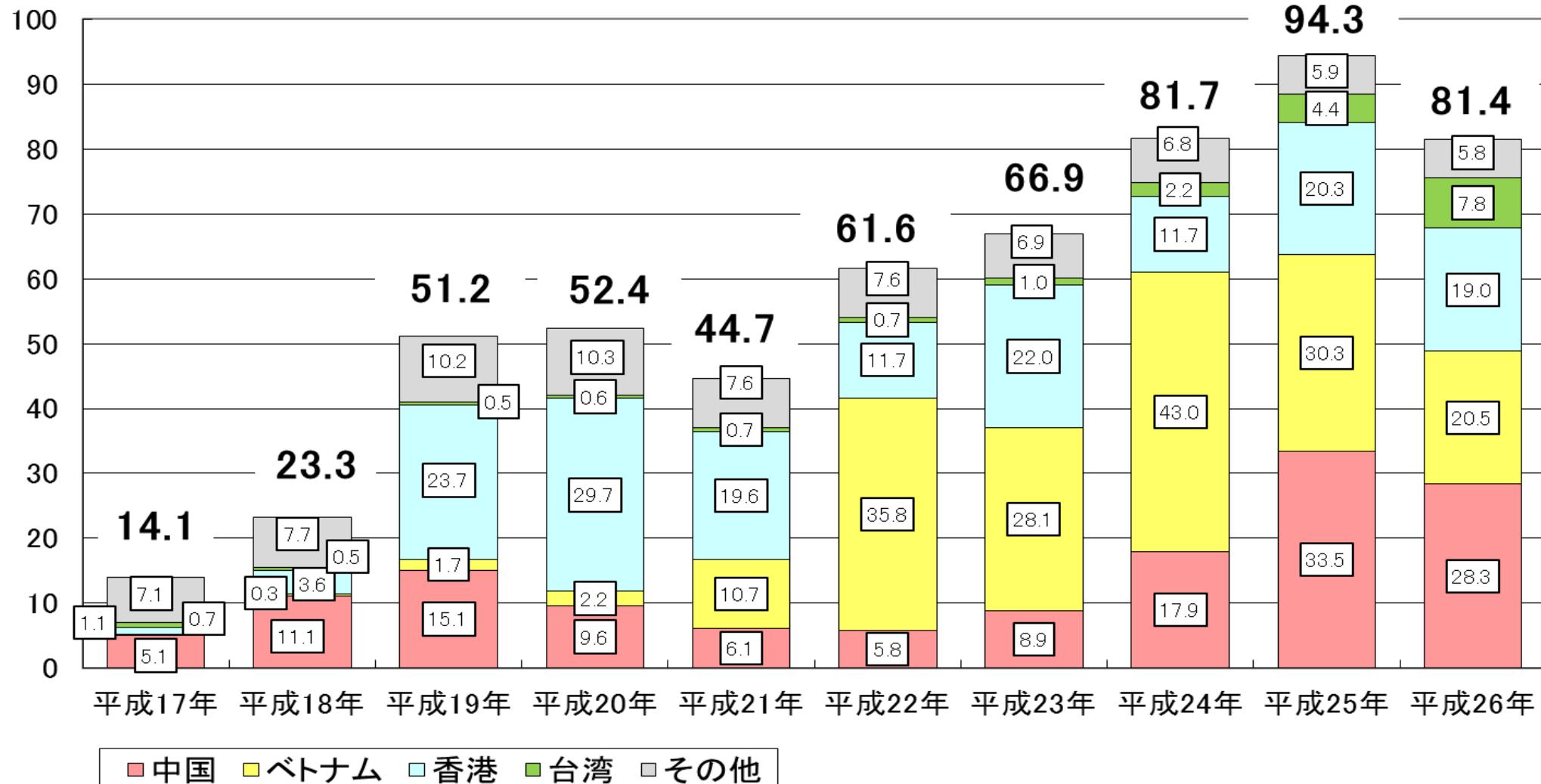


# 植木等の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 植木等(植木類、盆栽類、鉢物類)の輸出額は、平成25年まで増加傾向で推移していたものの、平成26年は減少。中国、ベトナム、香港、台湾向けだけで全体の約9割を占める。

(億円)



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

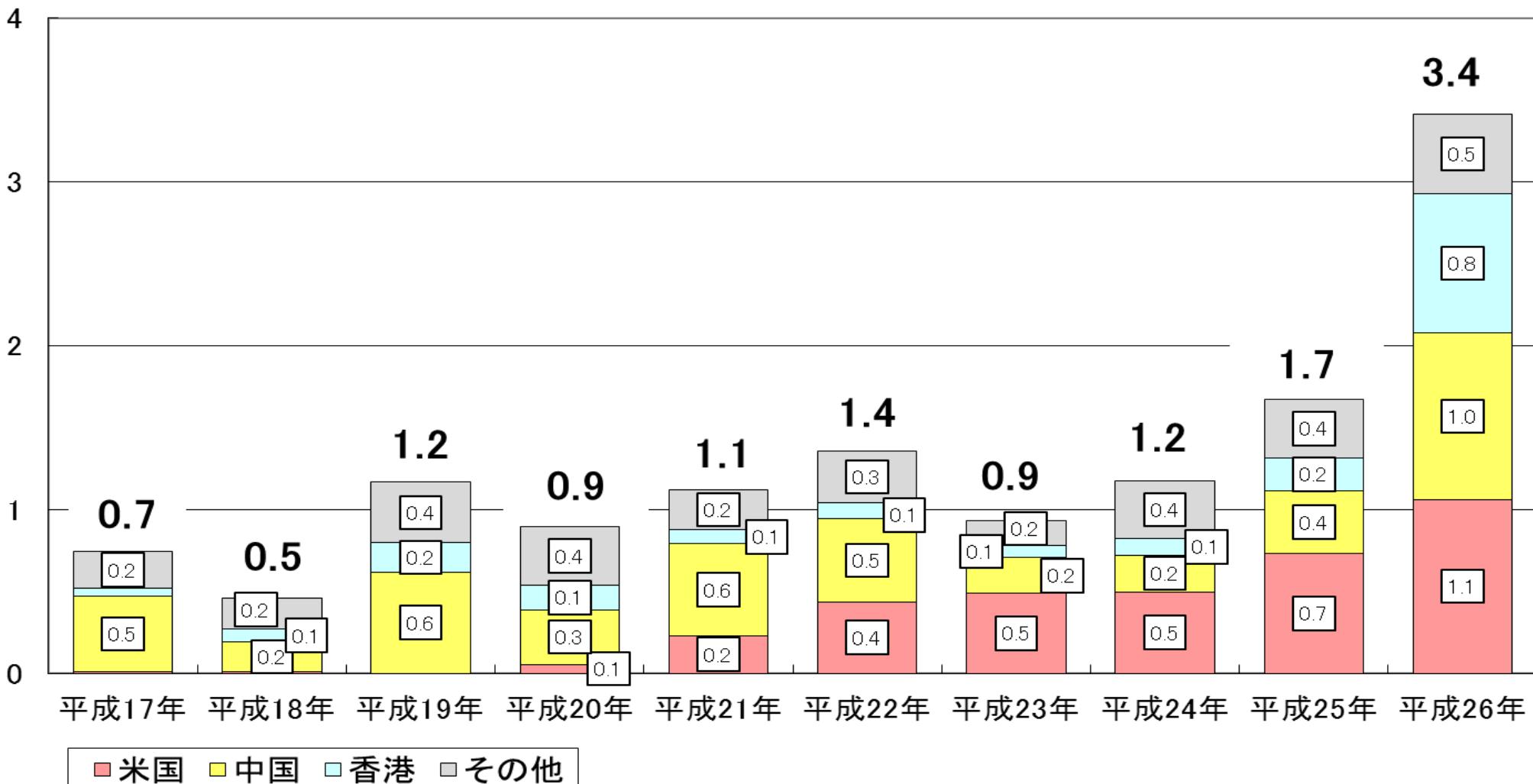


# 切花の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 切花の輸出額は、米国、中国、香港向けだけで全体の約8割を占める。近年増加傾向にある中、平成26年は大きく伸び、過去最高を記録。

(億円)



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

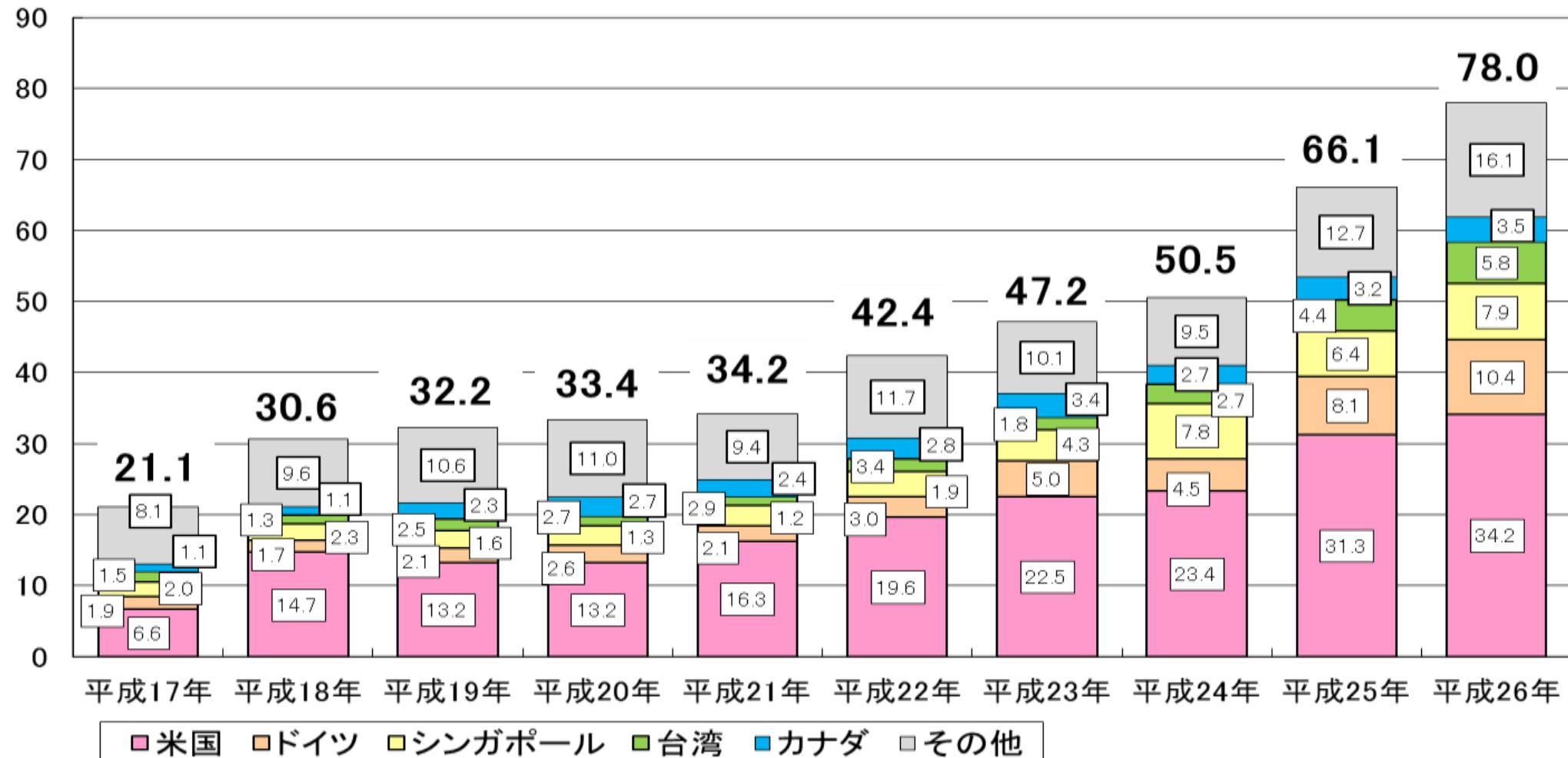


# 緑茶の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

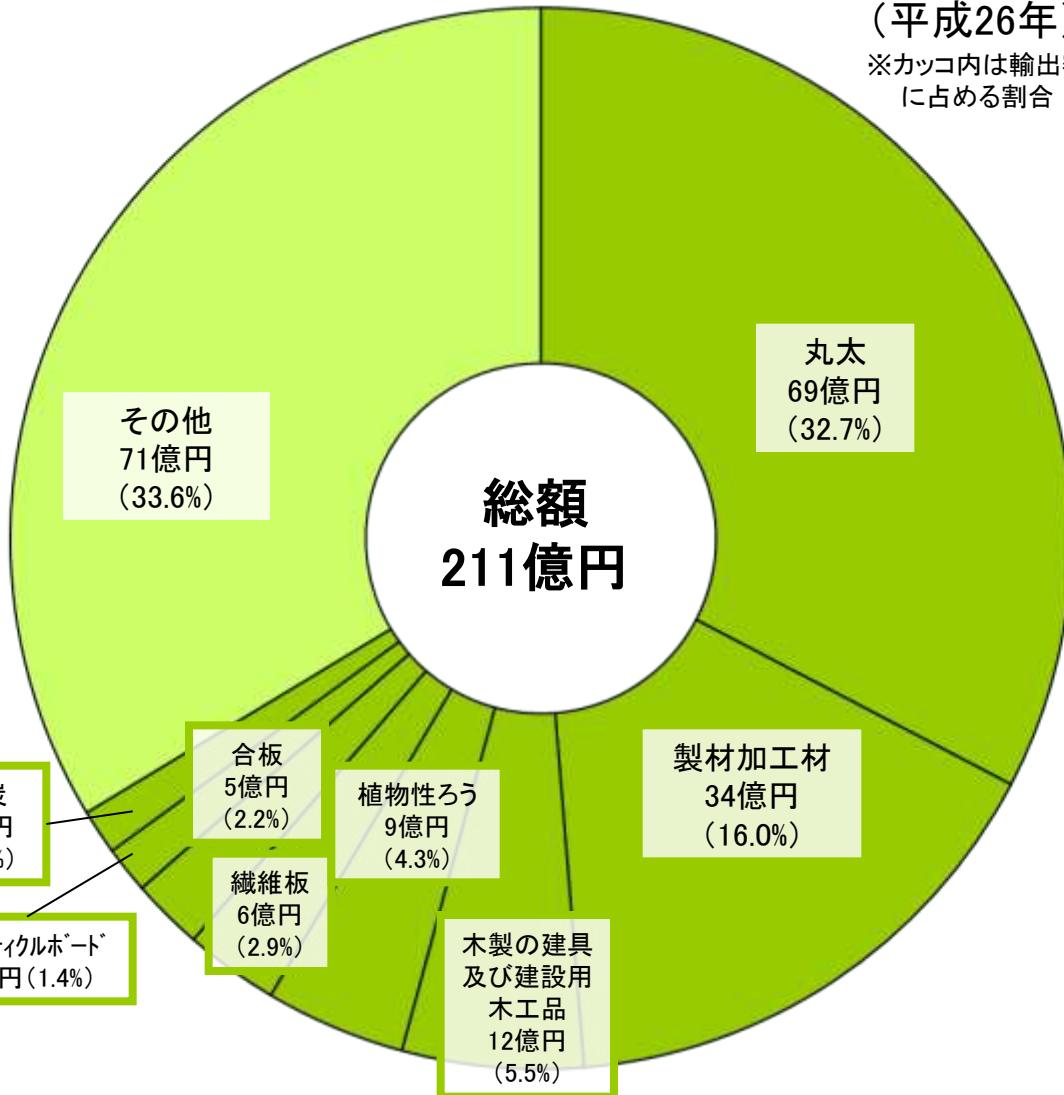
- 緑茶の輸出額は、順調に増加。
- 米国向けの輸出額が多く、店頭販売用の緑茶の需要が好調。

(億円)





- 林産物の品目別内訳をみると、丸太及び製材加工材の割合が多い。



(単位: 億円)

品目名	平成25年	平成26年	増減率
丸太	31.4	68.9	119.6%
製材加工材	28.5	33.8	18.9%
木製の建具及び建設用木工品	6.7	11.7	72.9%
植物性ろう	8.3	9.0	9.3%
繊維板	6.4	6.0	▲5.4%
合板	3.8	4.6	21.2%
パーティクルボード	2.4	3.0	25.6%
木炭	2.8	2.9	2.4%
その他	62.1	71.0	14.3%
林産物計	152.4	211.0	38.5%

※「木製の建具及び建設用木工品」には、コンクリート型枠を含む。

※「植物性ろう」……用途は、化粧品の材料など。

※「木炭」……用途は、お香専用炭(いわゆる香炭団(こうたどん))など。



# 丸太の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 平成26年は、前年に引き続き、丸太の輸出額が大幅に増加。
- 特に、中国での木材需要の増加等により、中国向けの輸出が大きく増加。

(億円)

80

70

60

50

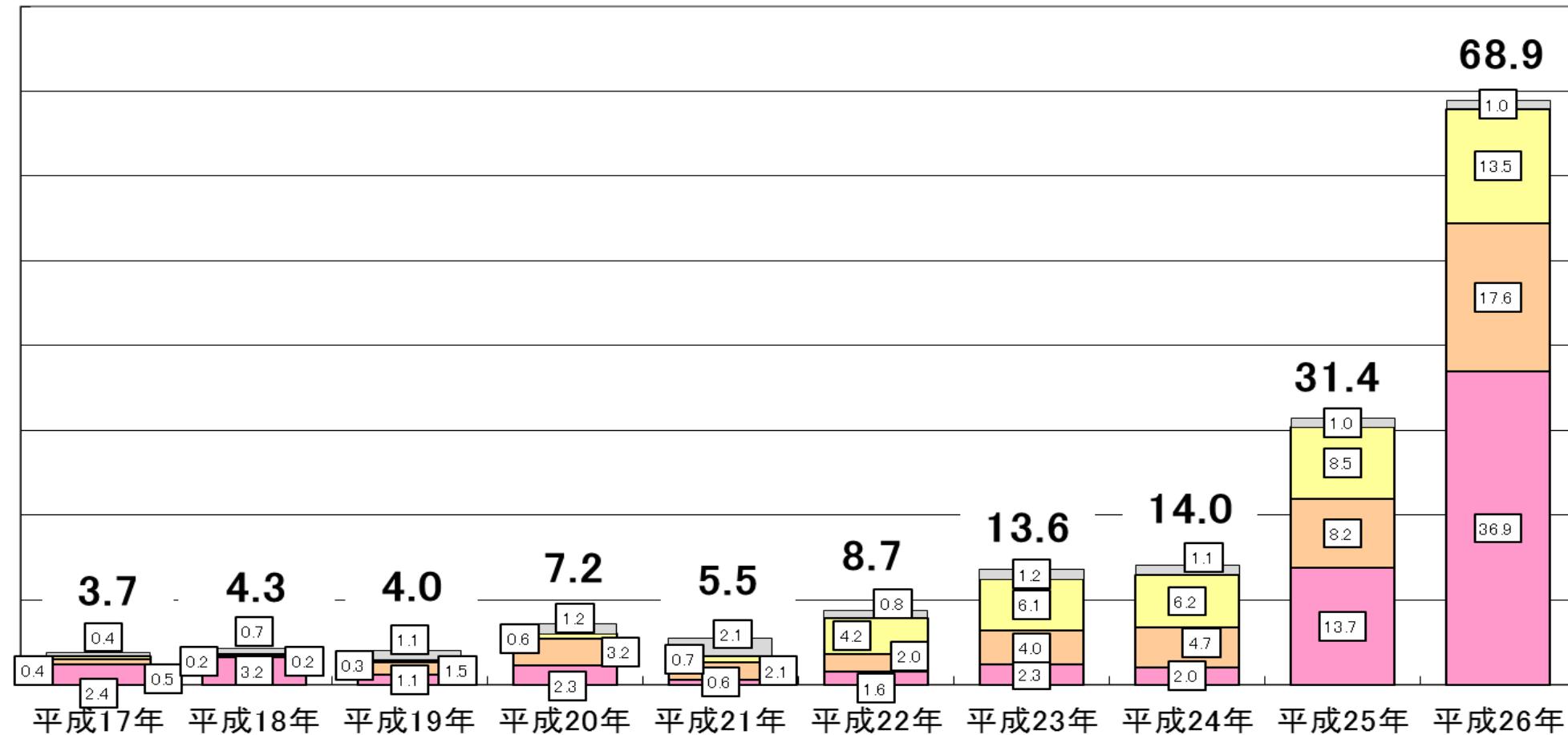
40

30

20

10

0



■中国 □韓国 □台湾 □その他

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

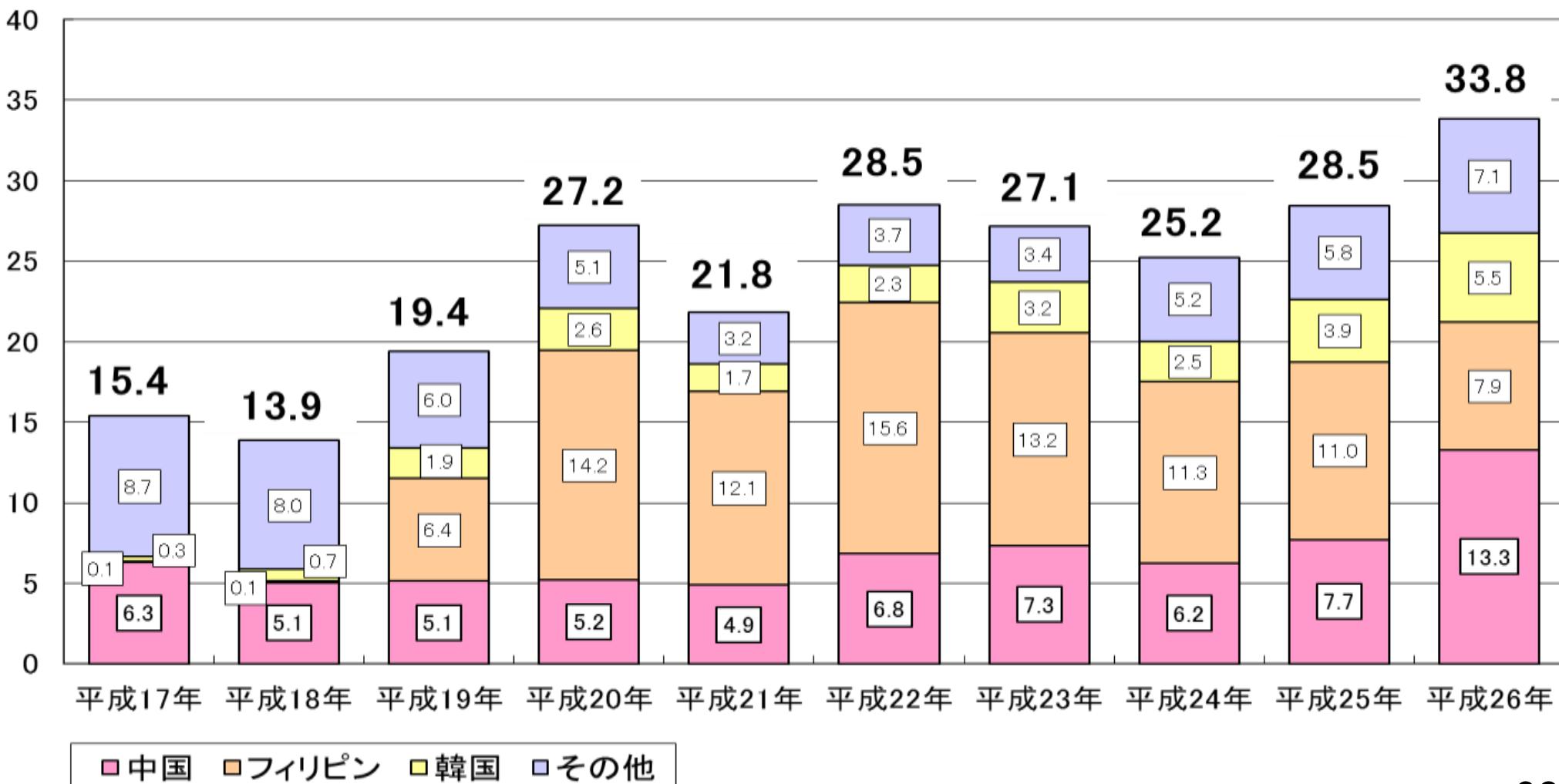


# 製材加工材の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 製材加工材の輸出額は、増加傾向。
- 平成26年は、平成19年以降の主な輸出先であったフィリピン向けを抜いて、中国向けが輸出先1位となった。

(億円)

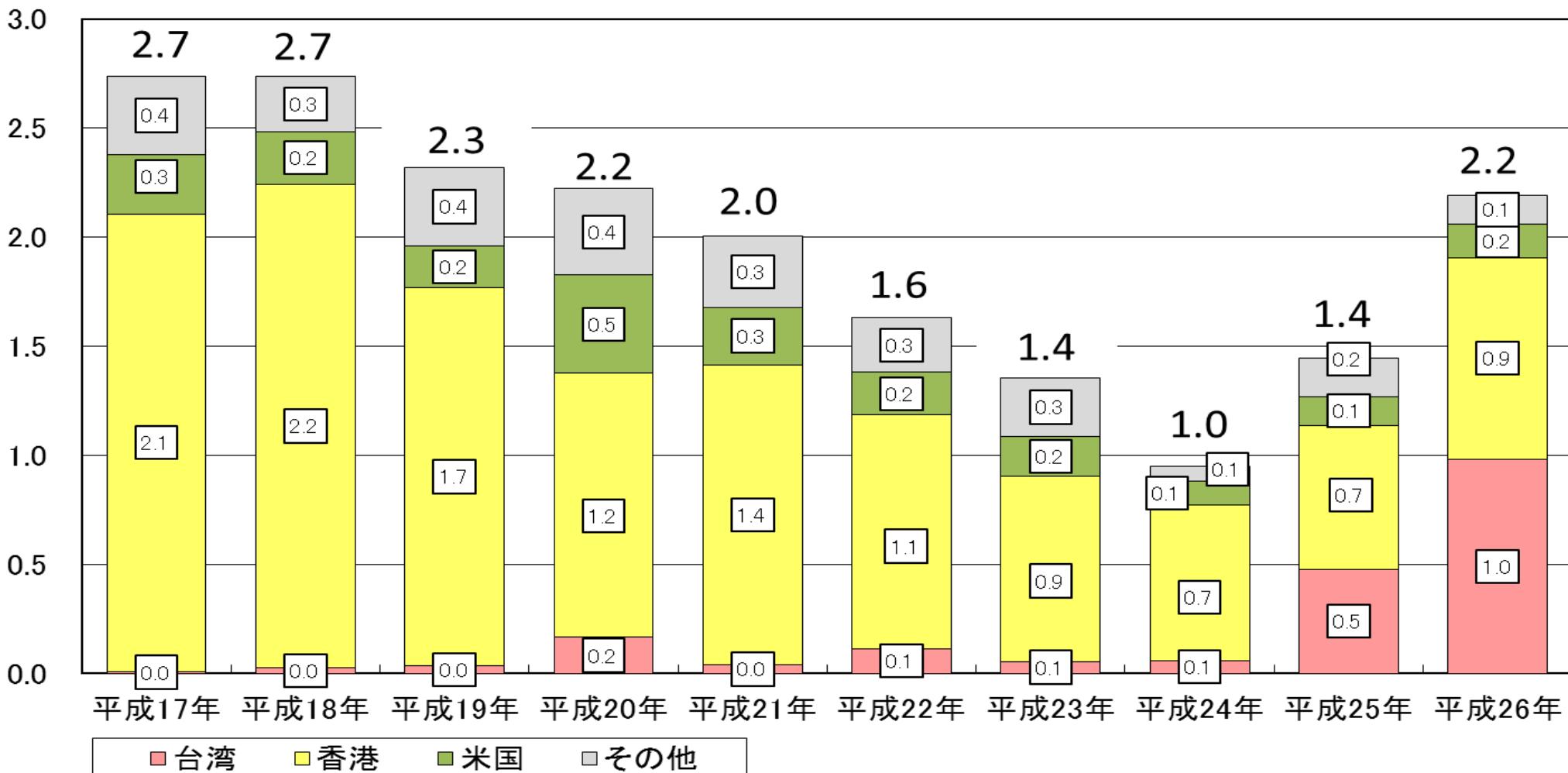


# 乾しいたけの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 乾しいたけの輸出額は、平成25年から増加に転じ、特に台湾向けが大きく伸びている。

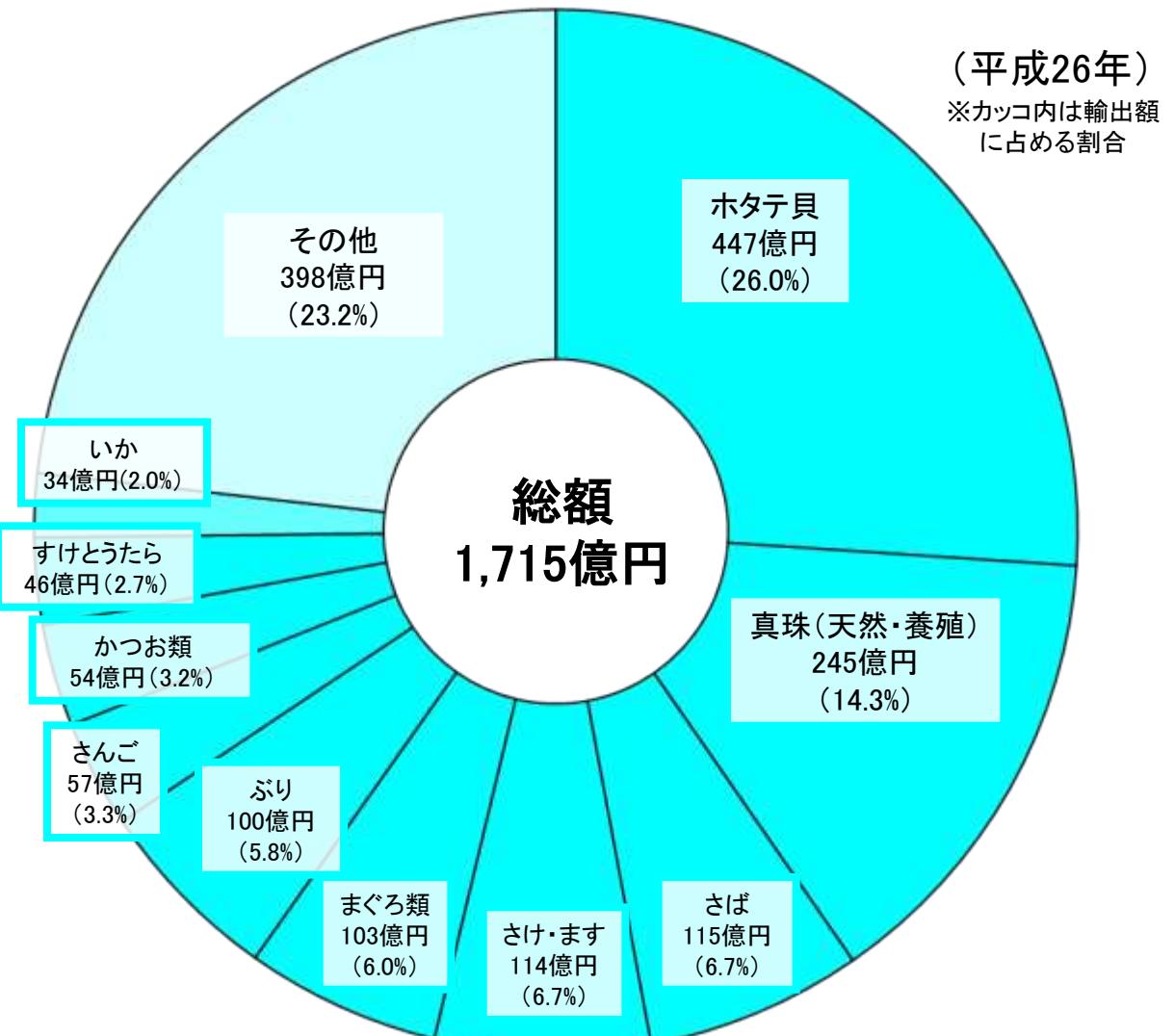
(億円)



# 水産物(水産調製品以外)の内訳

MAFF

- 水産物(水産調製品以外)の品目別内訳をみると、ホタテ貝、真珠(天然・養殖)、さば、まぐろ類、ぶりなどの割合が多い。



(単位:億円)

品目名	平成25年	平成26年	増減率
ホタテ貝(生・藏・凍・塩・乾)	398.5	446.7	12.1%
真珠(天然・養殖)	188.1	245.4	30.5%
さば(生・藏・凍)	119.6	115.1	▲3.7%
さけ・ます(生・藏・凍)	83.7	114.4	36.7%
まぐろ類(生・藏・凍)	92.2	103.4	12.2%
ぶり(生・藏・凍)	87.3	100.1	14.6%
さんご	52.6	57.2	8.8%
かつお類(生・藏・凍)	82.0	54.4	▲33.7%
すけとうたら(生・藏・凍)	50.0	46.1	▲7.7%
いか(活・生・藏・凍)	44.5	33.9	▲23.8%
錦鯉等	29.7	33.1	11.3%
魚油(肝油除く)	11.6	19.7	69.6%
いわし(生・藏・凍)	41.2	13.3	▲67.6%
たい(活)	15.1	13.1	▲13.2%
さんま(冷凍)	16.9	11.8	▲30.0%
干しのり 焼きのり 味付けのり	9.9	10.5	7.0%
さめ(生・藏・凍)	7.6	9.4	23.6%
乾こんぶ	7.4	8.1	9.4%
かに(冷凍)	4.6	7.1	53.8%
うなぎ(活)	0.9	6.7	669.2%
たら(生・藏・凍・すり身・すけとう除く)	7.6	6.6	▲13.5%
たこ(活・生・藏・凍・塩・乾)	5.2	4.8	▲8.8%
ほや(活・生・藏)	1.9	4.6	143.4%
えび(冷凍)	4.4	4.4	1.1%
めろ(生・藏・凍)	2.9	3.5	18.7%
ひらめ・かれい(生・藏・凍)	5.8	3.2	▲44.6%
ふかひれ	2.4	2.4	▲0.2%
魚粉	3.3	1.5	▲53.4%
寒天	1.3	1.3	▲1.9%
めかじき(生・藏・凍)	2.6	0.6	▲78.0%
その他	212.8	232.4	9.2%
水産物(水産調製品以外)計	1593.5	1714.8	7.6%

資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

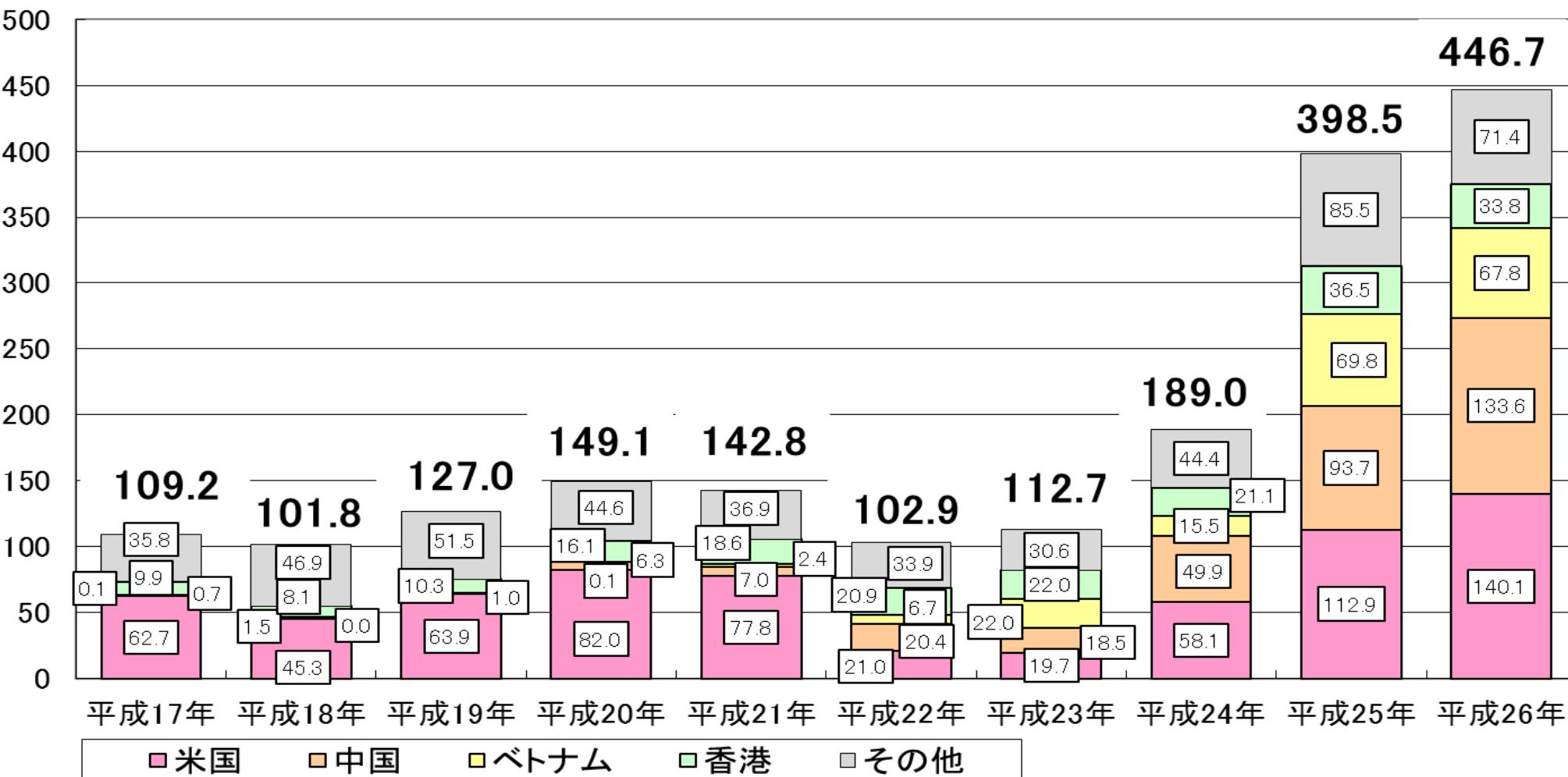


# ホタテ貝の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ホタテ貝は、我が国の主力輸出產品。
- 近年、輸出が顕著に増加し、米国、中国、ベトナム、香港向けで全体の約8割を占める。

(億円)



※輸出額は生鮮、冷蔵、冷凍、塩蔵及び乾燥品の合計

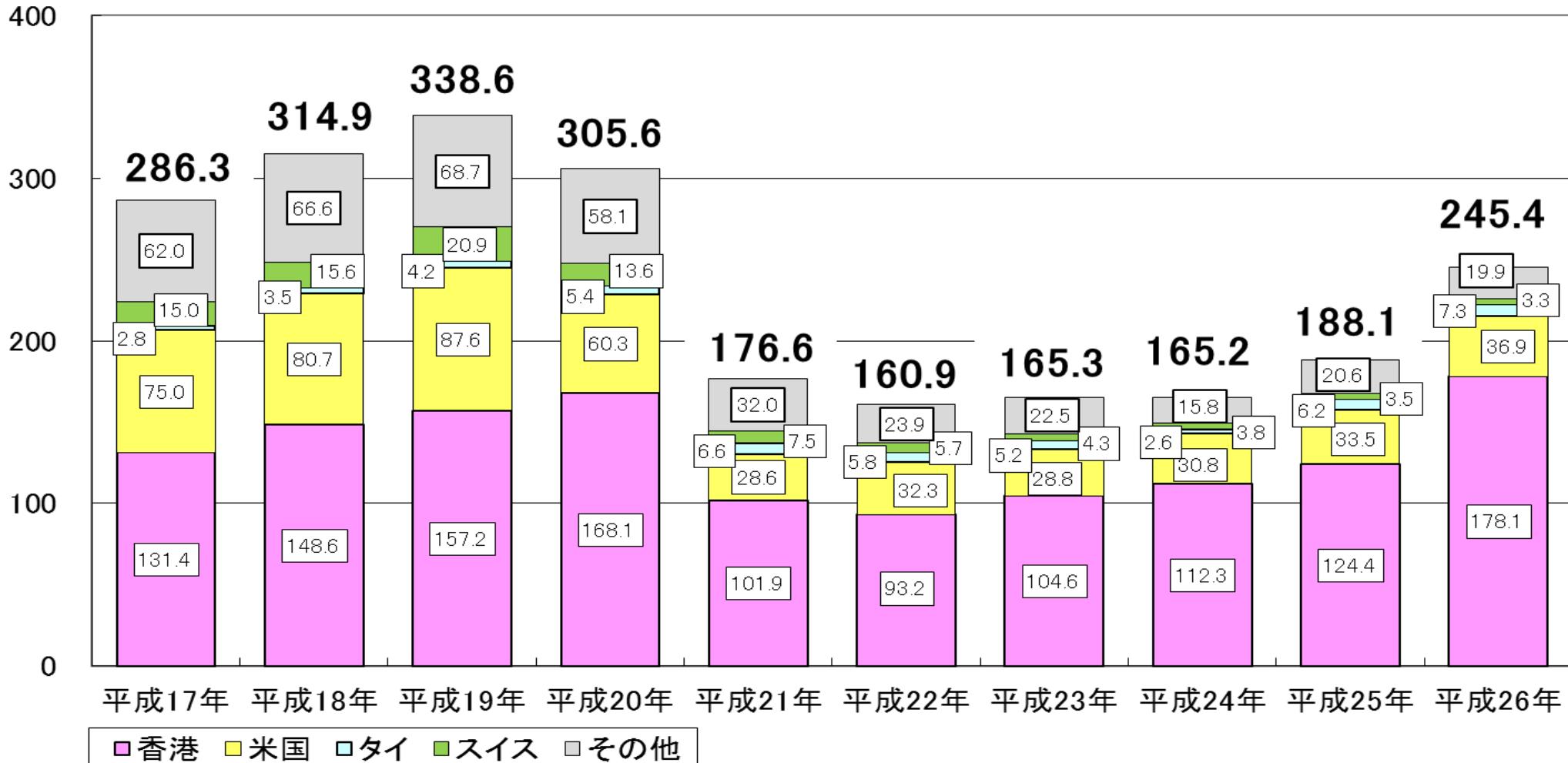
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

# 真珠(天然・養殖)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 真珠は、主に香港向けの輸出が大半を占める。近年は輸出が回復している。

(億円)



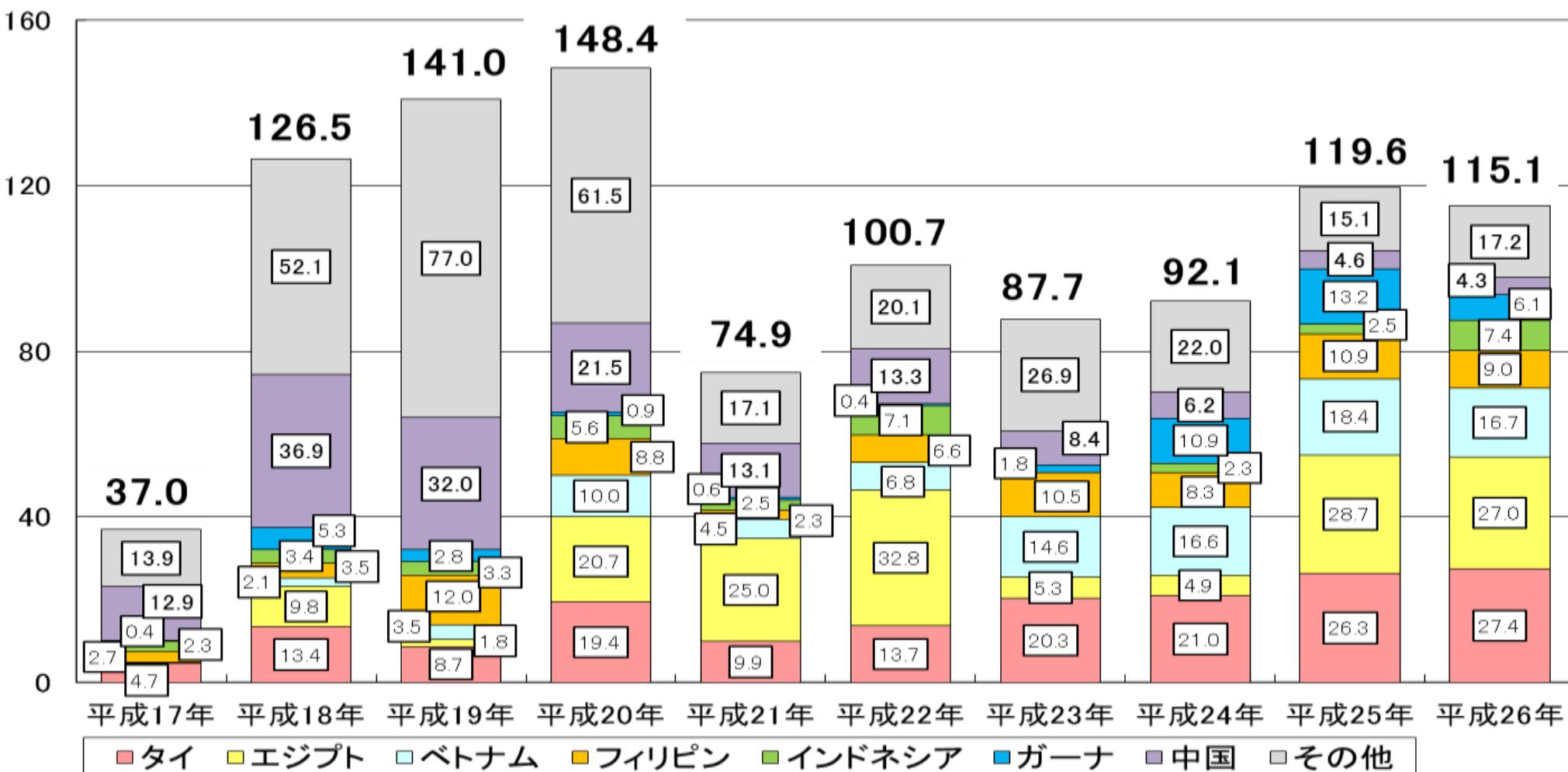


# さばの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- さばは加工用を中心にタイ、ベトナム、フィリピンなど東南アジア向けの輸出の他、エジプトやガーナなどアフリカ向けにも輸出されている。

(億円)



※輸出額は、平成22年までは冷蔵及び冷凍品の計。平成23年からは生鮮、冷蔵及び冷凍品の計  
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

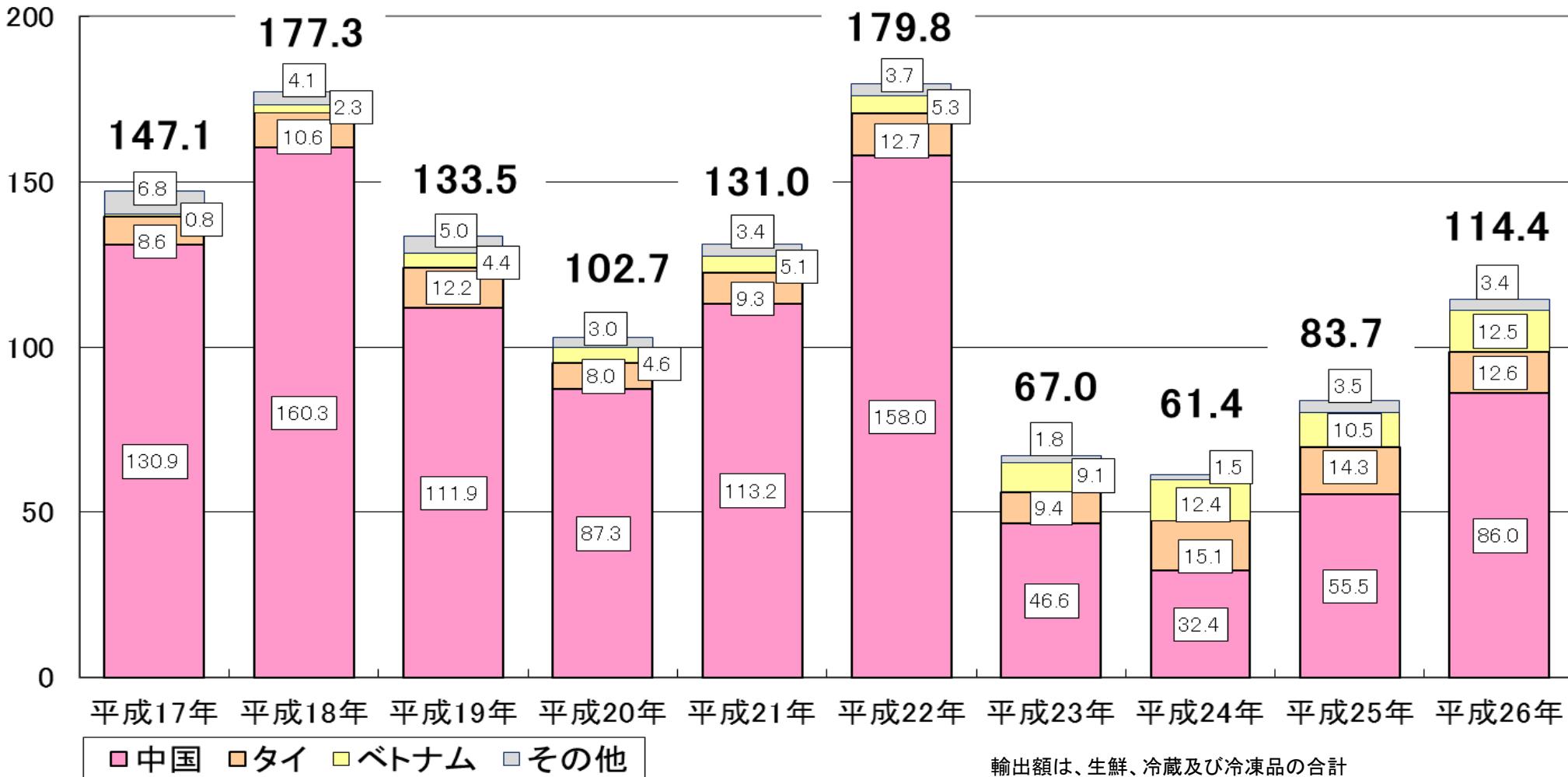


# さけ・ますの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- さけ・ますは、近年は不漁や東日本大震災等の影響により、輸出額は大きく減少したが、近年は増加傾向。

(億円)



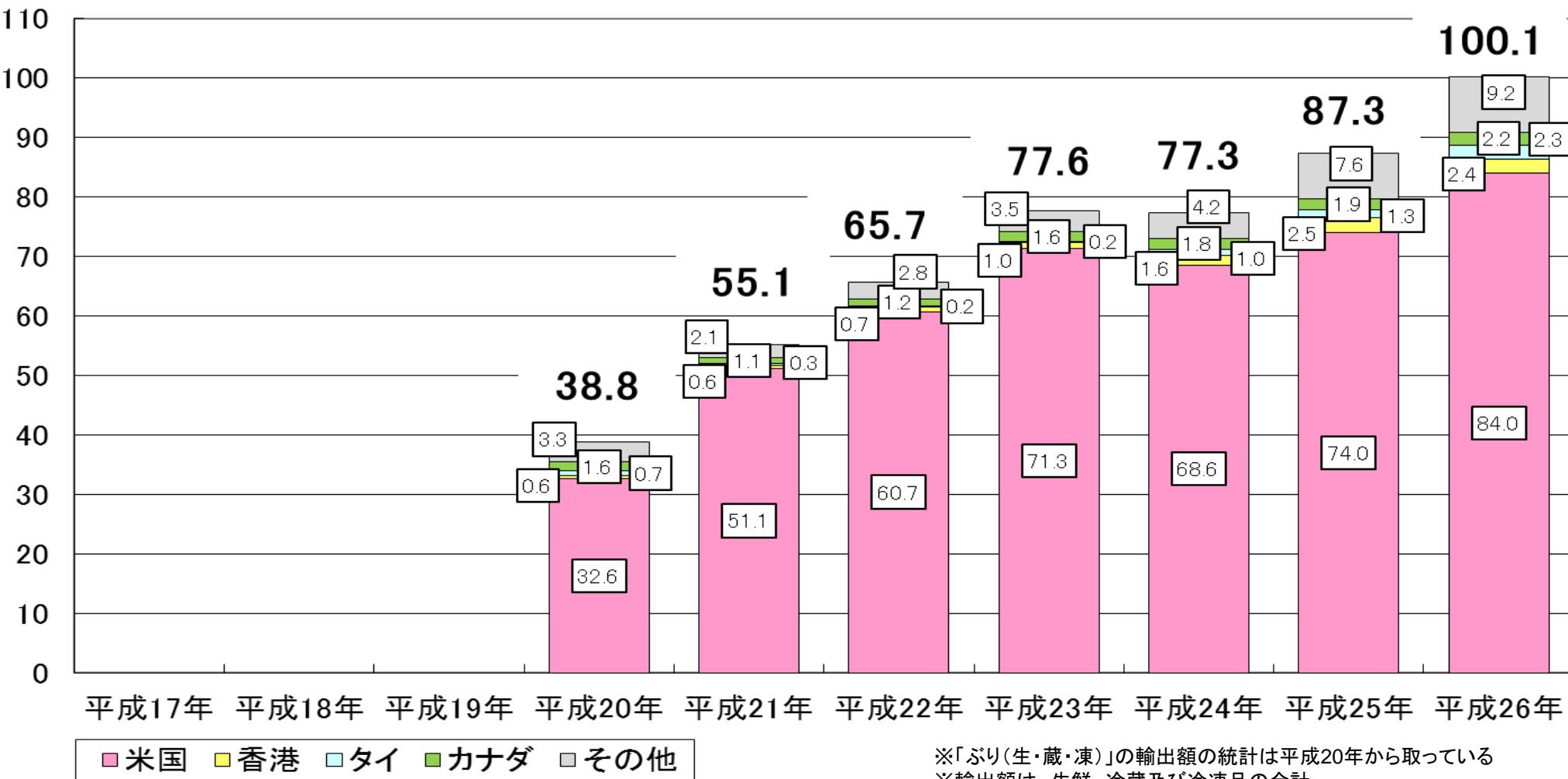


# ぶりの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ぶりの輸出額は、米国向けを中心に順調に増加。

(億円)



※「ぶり(生・藏・凍)」の輸出額の統計は平成20年から取っている

※輸出額は、生鮮、冷蔵及び冷凍品の合計

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

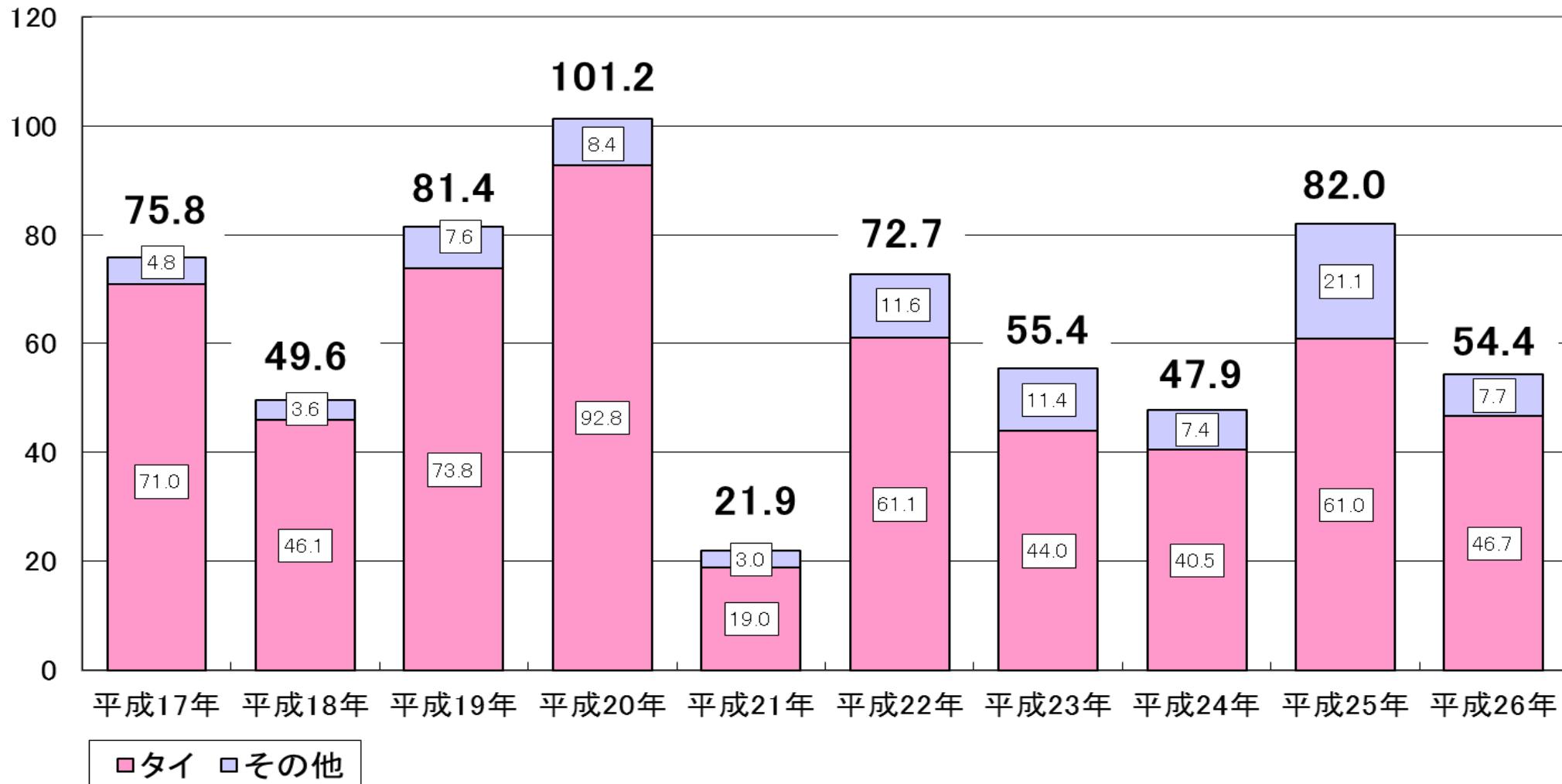


# かつお類の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 平成21年のかつお類の輸出額は、水揚量の減少や主な輸出先であるタイのバンコク相場の急落により大幅に減少。

(億円)



■タイ □その他

※輸出額は、生鮮、冷蔵及び冷凍品の合計  
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

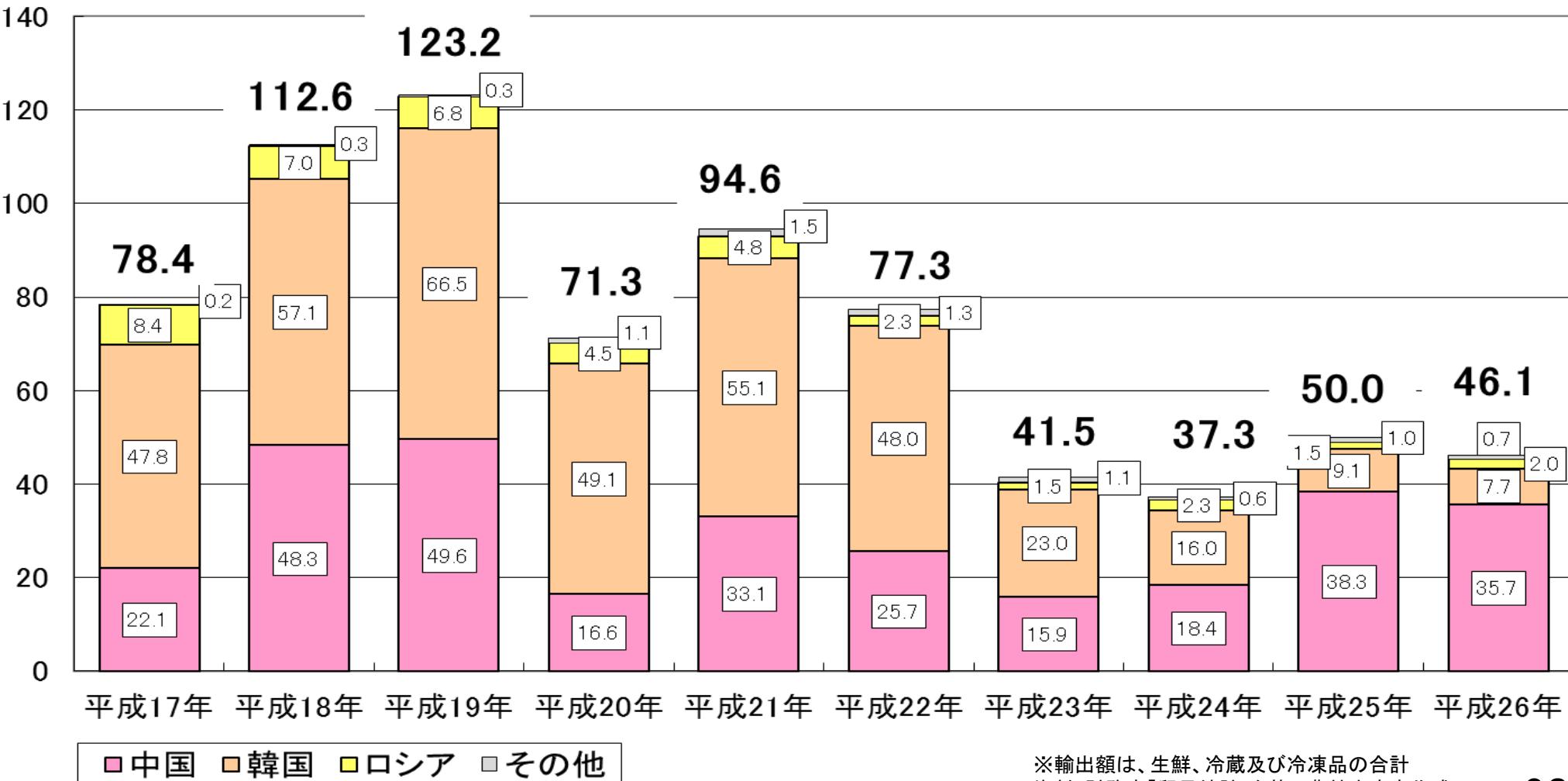


# すけとうたらの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- すけとうたらの輸出は、中国、韓国向けがほとんど。
- 東日本大震災等の影響により、輸出額が大きく減少しており、韓国については輸入規制強化に伴いさらに減少。

(億円)



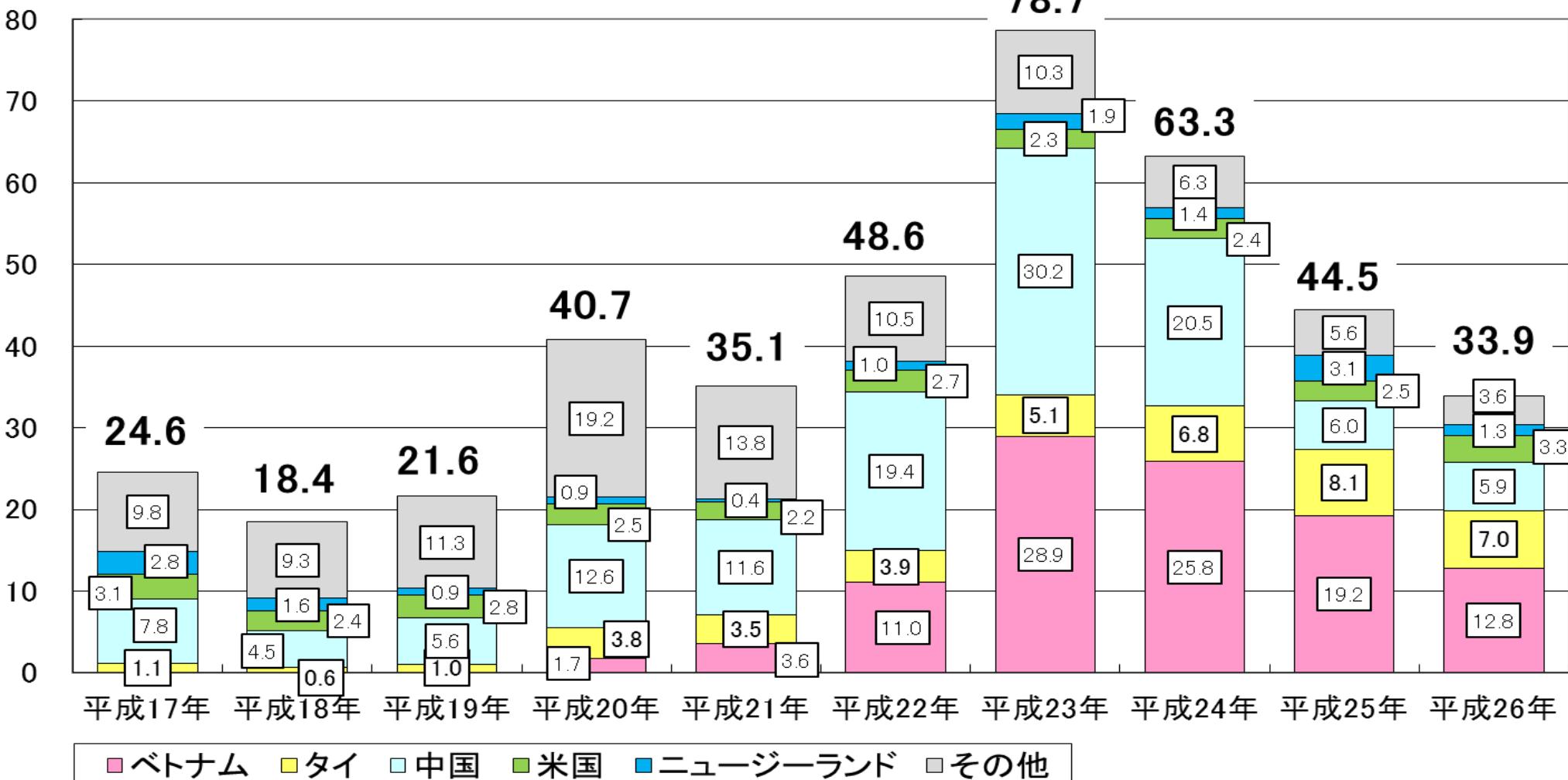
※輸出額は、生鮮、冷蔵及び冷凍品の合計  
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

# いかの輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- いかの輸出額は近年減少傾向。
- 主に加工原料用としてベトナム、タイ、中国向けに輸出。

(億円)



■ベトナム ■タイ □中国 ■米国 ■ニュージーランド □その他

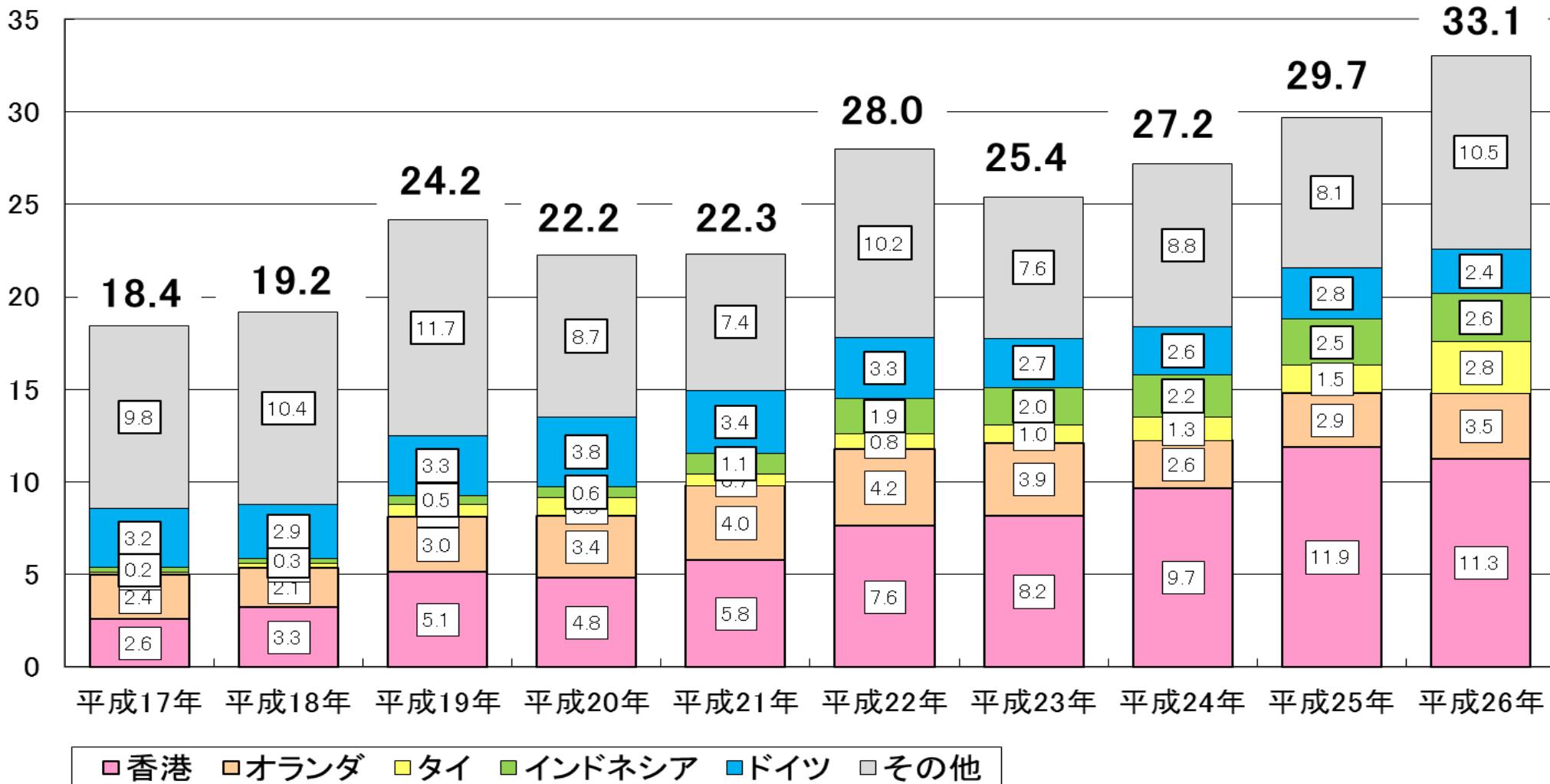
輸出額は、活、生鮮、冷蔵及び冷凍品の合計  
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

# 錦鯉等観賞用魚の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 欧米やアジアの富裕層を中心に増加傾向。
- 盆栽と並んで、日本文化の象徴として楽しめている。

(億円)



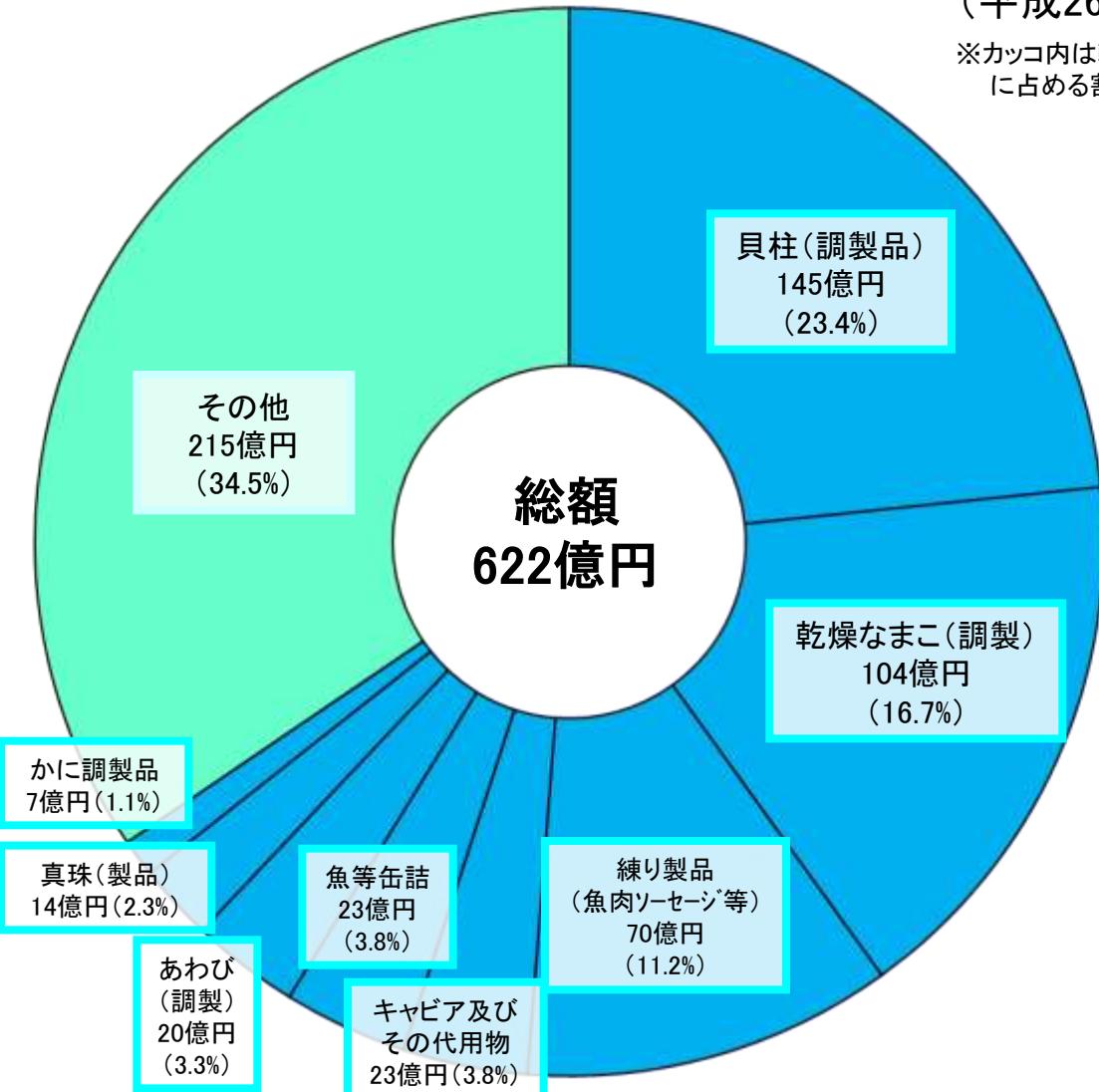
資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成



# 水産調製品の内訳

MAFF

- 水産調製品の品目別内訳をみると、貝柱、乾燥なまこ、練り製品などの割合が多い。



(平成26年)

※カッコ内は輸出額  
に占める割合

(単位:億円)

品目名	平成25年	平成26年	増減率
貝柱(調製品)	163.1	145.3	▲10.9%
乾燥なまこ(調製)	98.0	103.8	6.0%
練り製品(魚肉ソーセージ等)	59.5	69.6	17.1%
キャビア及びその代用物	23.2	23.5	1.3%
魚等缶詰	23.1	23.4	1.2%
あわび(調製)	18.1	20.4	12.3%
真珠(製品)	11.3	14.4	27.4%
かに調製品	6.5	7.1	8.9%
その他	220.3	214.6	▲2.6%
水産調製品	622.9	622.0	▲0.2%

※「貝柱(調製品)」は、スキヤロップ(いたや貝含む)の調製品を含む

※「貝柱(調製品)」、「乾燥なまこ(調製)」、「あわび(調製)」…中華料理の高級食材として使用。

「キャビア及びその代用物」…いくら、たらこなど

資料:財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

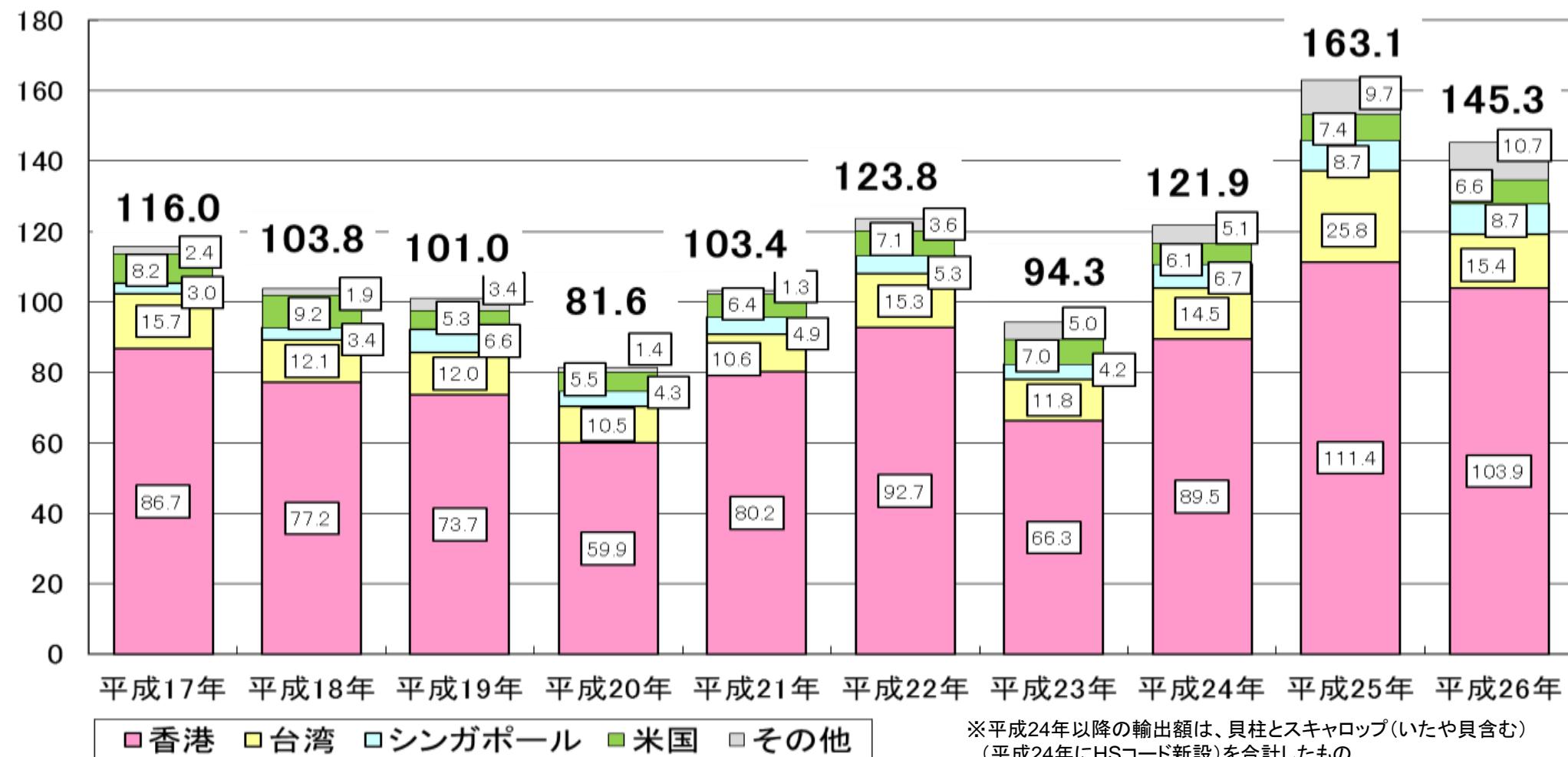


# 貝柱(調製品)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- ホタテ貝の干し貝柱を中心であるとみられ、中華料理の食材として使われている。
- ほとんどが香港や台湾に輸出されている。

(億円)



平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年

■香港 □台湾 □シンガポール ■米国 □その他

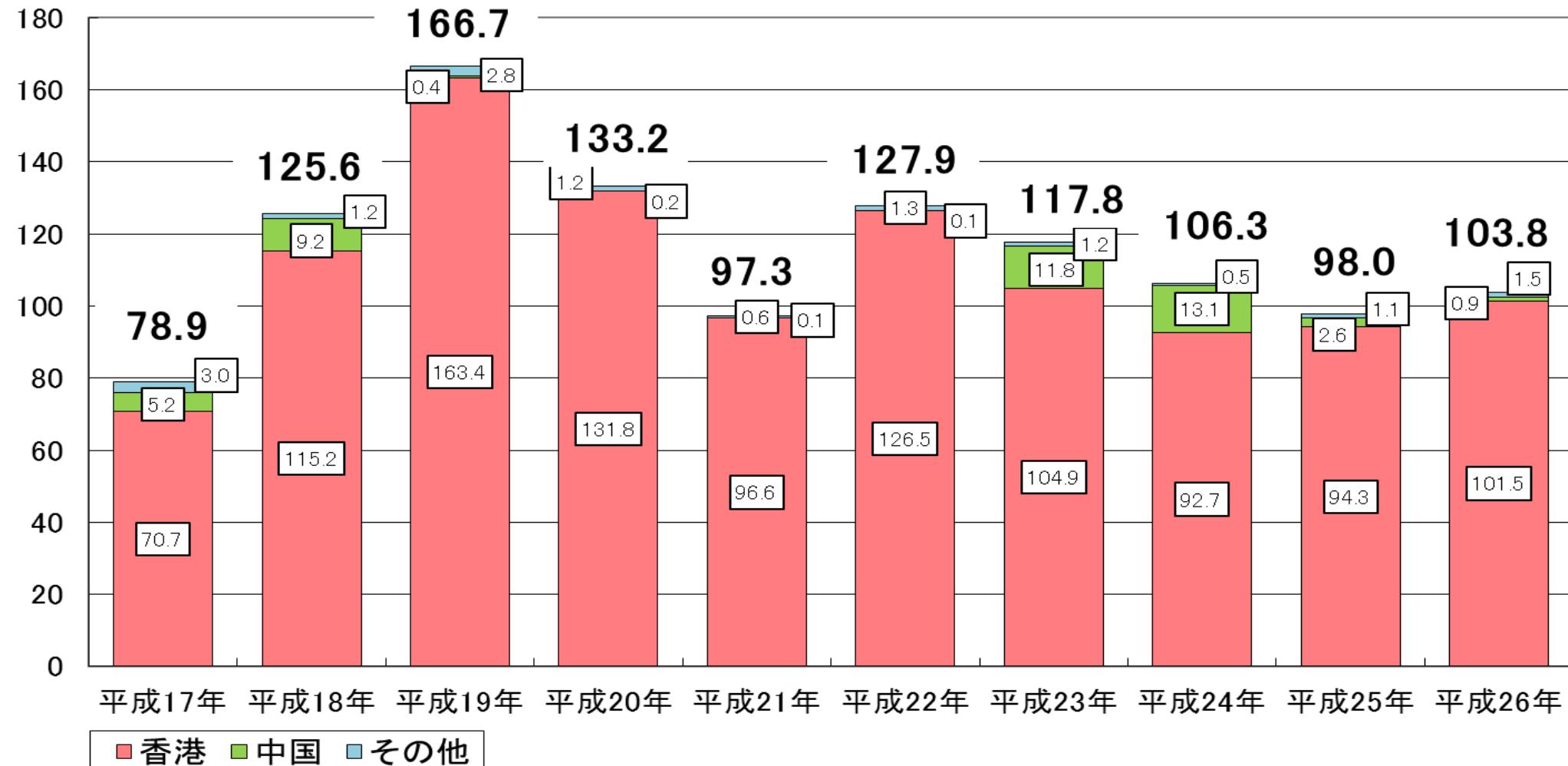
※平成24年以降の輸出額は、貝柱とスキヤロップ(いたや貝含む)  
(平成24年にHSコード新設)を合計したもの

# 乾燥なまこ(調製)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 乾燥なまこは、「黒いダイヤ」と称され、高級食材として人気。
- ほとんどが香港に輸出されているが、近年は減少傾向。

(億円)



資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成

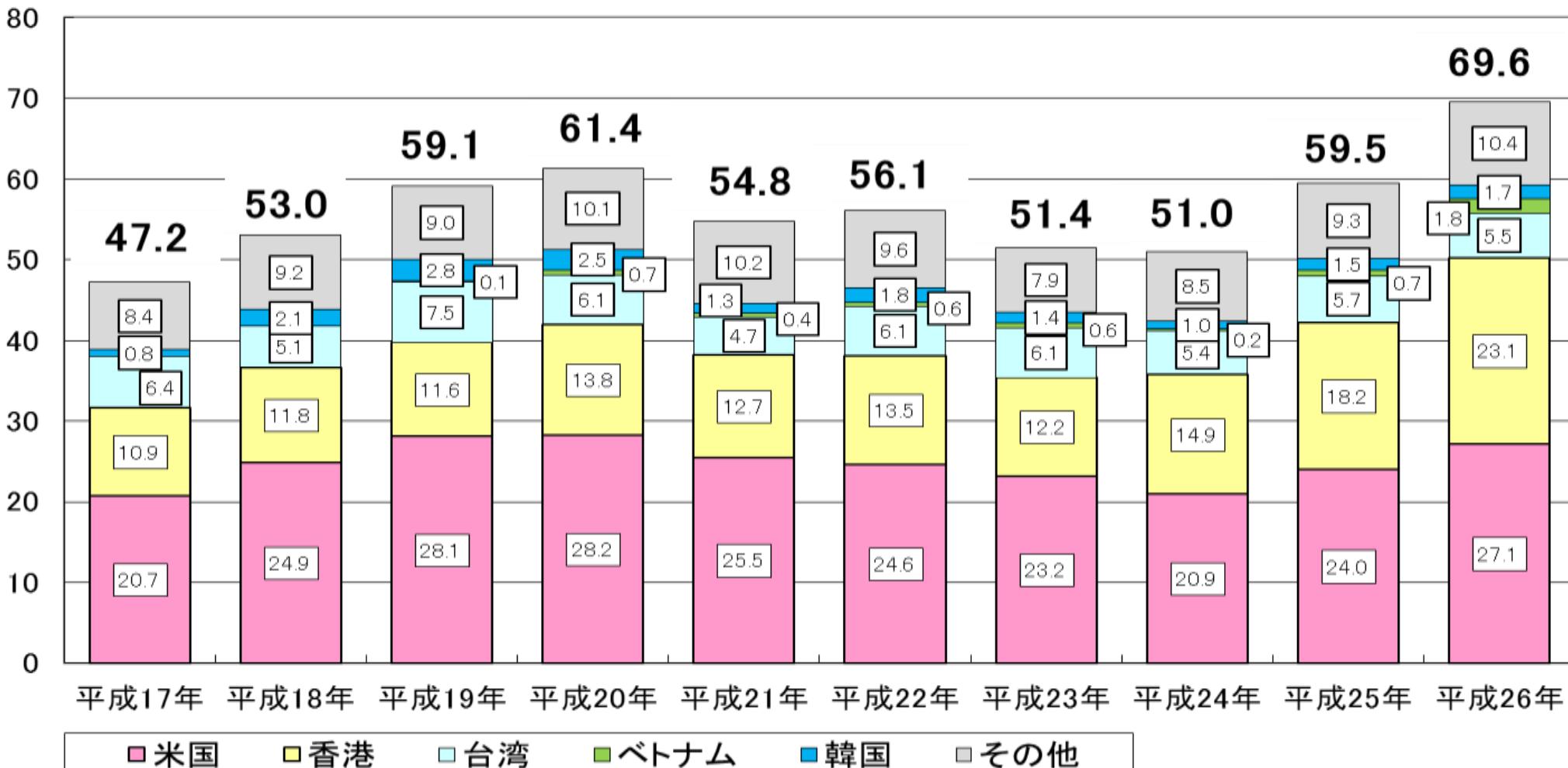


# 練り製品(魚肉ソーセージ等)の輸出額・輸出先国別推移

MAFF

- 米国、香港、台湾向けが全体の約8割を占めており、近年は増加傾向。

(億円)



# あわび(調製)の輸出額・輸出先国の推移

MAFF

- 高級中華料理の食材として人気のあわび(調製)は、ほとんどが香港に輸出されている。

(億円)

